

浸水深標識設置「まるごとまちごとハザードマップ」の取り組みについて

富山市建設部河川整備課

1. 「まるごとまちごとハザードマップ」とは

自らが生活する地域の水害の危険性を実感できるよう、居住地域を「まるごとハザードマップ」と見立て、生活空間である“まちなか”に、水防災にかかわる「洪水の浸水深に関する情報」を、「標識」により表示する取り組みのことをいいます。

2. 事業の目的について

令和2年度に全戸配布した富山市洪水ハザードマップに示された浸水深について、現地に「洪水標識」を設置して、実際に想定される浸水深が見える化することで、日常時から市民の水防災への意識を高めるとともに、浸水深や避難場所等の知識の普及・浸透を図り、発災時には命を守るための住民の主体的避難行動を促し、被害の最小限化につなげるものです。

3. 標識を設置する施設について

令和3年度から、河川整備課では、富山市が所管する「指定緊急避難場所」となっている施設について、避難場所施設の壁面を利用して標識の設置をすすめています。



施工例：中央小学校（浸水深 2.7m）



「最大想定浸水深」とは、最大想定における降雨（1000年に1回程度を想定しています）によって、河川が氾濫した時に想定される浸水深（地面から水面までの深さ）をいいます。

1000年に1回程度の降雨規模は、1年の間に発生する確率が $1/1000=0.1\%$ 以下の降雨を表しますが、近年、集中豪雨等による水害が頻発しており、小さな確率ながらも発生する可能性があります。